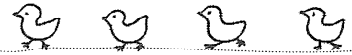


仏教園であること

『子育て明日へのことば』(公財)全国青少年教化協議会発行より



明るく正しく仲良く

栃木県真言宗豊山派観音寺住職
認定こども園たから幼稚園長

馬場 章信

先日、お寺の幼稚園・保育園・認定こども園の先生が参加する研修会で、栃木県仏教保育協会理事長の小林研介先生のお話を聞く機会を得ました。

新規採用の先生たちに向けての研修会でしたが、その内容は、子育て中のお父さん・お母さん方にも参考になるものと思い、このコーナーで紹介させていただくことにしました。

「仏教保育」とは、仏教の考え方や教えに基づいた保育を行うことですが、考えるより行うこと、論じるより実践することが大切であり、具体的には「明るく、正しく、仲良く」を子どもたちと一緒に行うことなんだというお話です。

「明るく」は、元気にあいさつすること、どんなことにも積極的に取り組むことです。大事なものは、他の人から見て「明るく」見えること。たとえつらいこと、悲しいこと、腹が立つことがあっても、すべては必然のこととして受け止め、子どもたちの前ではよくよしたり、ぷりぷりしたりせずに、明るく振る舞うことが大切なのです。

「正しく」は、ズルをしないということです。□だけの人にならないということです。子どもは、王様は裸だ！と見抜いたように、あの人はなんだか変だなと思うと、そばに寄らなくなります。昔から言われるように「仏さまは見えない」「お天道さまは見えない」を肝に銘じて、正しい行いをすることが大



切です。

「仲良く」は、協力しあうこと、他人のためを思って行うことです。相手の気持ちを受け止め、尊重する振る舞いをすることです。2〜3歳の子どものケンカの主な原因は、物の取り合い、場所の取り合い、人の取り合いです。自我が芽生え始めると、何でも自分のものにしたがりますので、この取り合いは当たり前のごとで、そのこと自体は決して悪いことではありません。こうした経験を重ねることによって、だんだんと他人の気持ちに気づくようになっていくからです。ひとりであるよりみんなと一緒にがうれしい、楽しい、と思えるように、大人がそのお手本でなければなりません。

深くうなずきながら熱心に耳を傾ける若い先生たちを見ていて、ふと、これって園の先生に限った話じゃなくて、子育て全般に通用することだと思いました。とすると親としての自分はちゃんとできていたかなあと、思わず自身を振り返ってしまいました。そこに小林先生の次の言葉。「こうした保育が実践できるとか、ふだんのあなた方の生き方、生活にかかっています。毎日の生活を、そう休日も、明るく、正しく、仲良く過ごしてくださいね。」

耳の痛い話です。ついつい外での嫌なことを家に持ち込んで不機嫌にしていたり、ルールをないがしろにして結果だけを求めたり、子どもの前でケンカをしたり……。もう反省しきりです。

子どもたちは、大切な命をいただいてほけの子としてこの世に生まれてきました。園でも家庭でも、大人の私たちが、「明るく」「正しく」「仲良く」の仏教を実践して、その子らの成長を見守っていくことが大切なんだと、あらためて心に刻むことになりました。